（公財）中央果実協会
No.380

世界のリンゴ市場（抜粋）

FreshPlaza　2025年1月24日

世界のリンゴ市場は大きな変化を遂げつつあり、それは様々な生産レベル、変化する消費者の嗜好、及び変動する貿易力学によって特徴付けられている。（中略）

ヨーロッパのリンゴ市場は、独自の課題とチャンスに対応している。ポーランドでは、激しい霜と雹を伴う嵐により生産量が13.1％減少したが、貿易環境の改善によりエジプトへの輸出は回復している。イタリアの生産量は、有機リンゴの生産量の13％の復活に支えられて、8％増加した。逆に、オーストリアのシュタイアーマルク州では収穫量の最大60％の損失に直面しており、スイスでは有機リンゴの売上が12％減少したと報告されている。地域差はあるものの、安定した価格と旺盛な需要がドイツ、フランス、スペインの市場を支えている。世界のリンゴ産業の生産動向と貿易ルートの変化は、環境要因、消費者動向、経済の変化の相互作用を反映している。

中国：販売が低迷、輸出規模が縮小

中国の旧正月が近づくにつれ、中国のリンゴ市場は販売が減速し、価格が下落している。甘粛省の静寧（ジンニン）県や秦安（チンアン）県など主要なリンゴ産地の生産者や商人は、厳しい経済環境の中で在庫を一掃するため熱心に取り組んでいる。静寧県では、人気の高い赤いふじリンゴは安定した品質と15～18度の糖度が評価され、依然として高い需要がある。商人達は、価格がより競争力のあるレベルで安定したことから、急速な荷動きを報告している。同様に、秦安県の花牛（ファニュウ）リンゴは、地元の需要による若干の価格上昇の恩恵を受けて、貯蔵在庫量の90％を成功裏に出荷した。

中国産リンゴの輸出市場では、特にネパール、インドネシア、ベトナム、タイで、小玉の果実を好む傾向が強まっている。たとえば、ネパールでは、サイズ60、65、70などの需要が著しく増加している。さらに、赤リンゴの「瑞雪（ルイシュエ）」、「瑞香（ルイシャン）」等の新品種は供給が限られており、独特の特性があるため、価格が高くなっている。しかし、「黄元帥（ホワンユエンシュアイ）」等の古い品種は魅力を失っており、国内外で消費者の嗜好が変化していることを示している。

南アフリカ：好天がアフリカとアジアへの輸出を後押し

フリーステート州とムプマランガ州のリンゴ農場では、昨年7月の異常に急激で厳しい寒波、遅く始まり長引いた開花期、9月末の大雪を経て、現在、従来品種の収穫が始まっている。

しかし、落葉果樹農業の業界団体であるHortgroは、南アフリカの主要なリンゴ産地全体では、天候条件はより良好で、涼しい夜は果実の肥大と着色を促進しているとしている。同団体は、今シーズンこれまでのところ日焼けがほとんどなく、これからのシーズンのリンゴの輸出箱数は5,130万箱（12.5kg/箱）と予測しており、これは前年に比べて12％多かった2024年の輸出量よりもさらに5％多い。

Hortgroは最近のプレスリリースで、「輸出量の増加は、若い果樹園の成園化、多収性品種の導入、及び2023年の降雹と洪水の影響からの回復による生産量の増加に起因している」としている。

南アフリカで育成された果実全体が赤いガラの栽培品種であるビッグバックス/フラッシュガラは、引き続き果樹生産者の間で人気を獲得しており、その栽培面積は24％増加した。ロイヤルガラやクリップスピンク/ピンクレディーの園地も面積が増加している。プレスリリースは「クリップスレッド/ジョヤ®の出荷量についても9％の増加が見込まれ、見通しは前向きである」としている。

輸出業者達は、主に英国の需要がピンクレディーとブレイバーンに限定されていることから、ヨーロッパでの南アフリカ産リンゴの販売機会が減少しているとの見方で一致している。南アフリカのリンゴ輸出の将来は、アフリカとアジアにある。南アフリカ産リンゴの半分は、様々なアフリカ諸国（フランス産が市場を支配している北アフリカを除く）のバイヤーによって購入されている。また、アフリカ大陸の中でも東西で品種の好みに顕著な違いがある。生産者達は、アフリカはグラニースミス、トップレッド、ゴールデンデリシャス等の古い品種にとって重要な市場であるが、東アフリカではピンクレディーも大変好まれていると報告している。

インド、バングラデシュ、ベトナムは南アフリカ産リンゴの輸出で重要な役割を果たしており、タイは最近、南

アフリカ産リンゴに市場を再解放した。ただし、インドネシア等の人口の多い国では、南アフリカ産のナシの輸入は認められているが、リンゴの輸入は許可されていない。

リンゴはCA貯蔵庫で次のシーズンまで貯蔵される。国内では、リンゴは町や村の市場で14.58ランド（0.76ユーロ）/kgで取引されている。食料価格のインフレ傾向を反映して、リンゴはより高価になってきている。シーズン後半のCA貯蔵リンゴは、過去2シーズンには、2021年、2022年の同様の期間に比べて4～6ランド（0.2～0.3ユーロ）/kg高く取引された。

北米：ワシントン州の豊作と有機リンゴの増加

米国最大のリンゴ生産州であるワシントン州のリンゴの総収穫量は、当初の予測である1億2,500万箱より8％多い約1億3,500万箱と推定されている。収穫量の多い上位5品種は、ガラ、レッドデリシャス、グラニースミス、ふじ、ハニークリスプである。ワシントン州で栽培されるすべての品種の中で、約32％減少したハニークリスプだけが今シーズン大幅に減少した。その結果、ハニークリスプの価格は昨シーズンの平均のほぼ2倍になっている。生産量が最も増加したのは、広く栽培されている最新の品種であるコズミッククリスプで、現在6位にランクインしている。有機リンゴの視点から見ると、この品種はワシントン州の総収穫量の約16％、国内で栽培されているすべての有機リンゴの90％を占めている。有機リンゴの全体的な需要は強く、その増加のペースは有機リンゴの植栽のペースを上回っている。平均して、価格は昨シーズンよりも上昇している。

中西部と東部は小規模な産地であるが、同様にハニークリスプの収穫量が少なく、価格が上昇している。ミシガン州では、シーズン序盤の強い加工需要により、ゴールデンデリシャスの出荷量が大幅に減少した。

一般的に、業界は関税の可能性について懸念している。レッドデリシャス等の一部の品種は、国内市場ではあまり好まれていないが、世界の他の地域の消費者には人気がある。関税が（再び）課された場合、それは重大な損害を引き起こす可能性がある。米国の産業にとってアジアへの輸出が重要なだけではなく、中南米も重要な市場である。

ニュージーランド：回復と早期収穫がアジア市場を狙う

ニュージーランドには、北島のホークスベイ地方と南島のネルソン地方という2つの主要なリンゴ産地があり、合わせて生産量の約88％を占めている。残りはオタゴ、ギズボーン、ワイカト、ワイララパの各地方・地域に広がっている。

ニュージーランドのリンゴ産業は、2023年のリンゴシーズンの序盤に大被害をもたらしたサイクロン・ガブリエルやその他の悪天候による過去数年の厳しい年から十分に回復したようである。春の温暖で良好な生育条件は、収穫が昨シーズンより5～7日早くなることを示している。夏の間に着色に最適な涼しい夜が何度かあり、適度な降雨量があれば果実の良好なサイズが確保されるはずで、これは生産面からの吉報である。

多くの生産者は、アジア市場、特に中国を対象とした独占的な品種に注力している。それらは果実全体が赤色で糖度が高い傾向があるが、アジアでは一部の黄色の品種も人気を集めている。ライセンス制の品種に加えて、ニュージーランドはすべての従来品種を生産している。

2024年11月に発表された米国農務省の報告書によると、同省海外農業局のウェリントン事務所は、2024/25年度のリンゴ生産量を56万トンと予測している。同事務所はまた、2024/25年度の輸出量を強気の38万トンと予測しており、これが実現すれば2020年以来の高水準となる。近い将来の輸出はベトナム、中国等のアジア市場に注力するほか、米国や英国にも力を入れると見込まれている。インドは、人口増加とより健康的な食品への需要の増加に伴いリンゴの消費量が増加し続けており、ニュージーランドの輸出業者にとって成長市場になると予測されている。

ニュージーランド・リンゴ・ナシ協会の今シーズンの予測はまだ発表されていないが、ニュージーランドは昨年、1,890万箱相当（TCE）を輸出した。これはシーズン開始時の予測より11％少なく、この減少は果実のサイズが予想よりも小さかったことに起因している。

執筆者：ステファン・ヤンセン・ファン ニューエンハウゼン